

ASEANのエクセレントカンパニー③

クオック・グループ

—ASEAN 華人経営者のタイクーン(大君)が築く



ニッセイ基礎研究所 主席研究員アジア部長
新潟大学大学院 教授

平賀富一
Tomikazu Hiraga

シリーズの第3回は、マレーシアで最大、ASEANでも有数の富豪であり、その富のみならず、謙虚な人柄、消費者志向の姿勢といった点で多くの人々から尊敬される華人企業家ロバート・クオック氏(Robert Kuok Hock Nien: 中国名は郭鶴年、93歳)とクオック・グループを取り上げる。

ファミリーの絆を大切に事業展開

クオック・グループは図のように、3つの主たる持株会社である、クオック・シンガポール、クオック・ブラザーズ(マレーシア)、ケリー・ホールディングス(香港)により構成されていて、これらの傘下にパーム油や農産品の取引・加工、不動産・ホテル事業、海運、輸送、倉庫、金

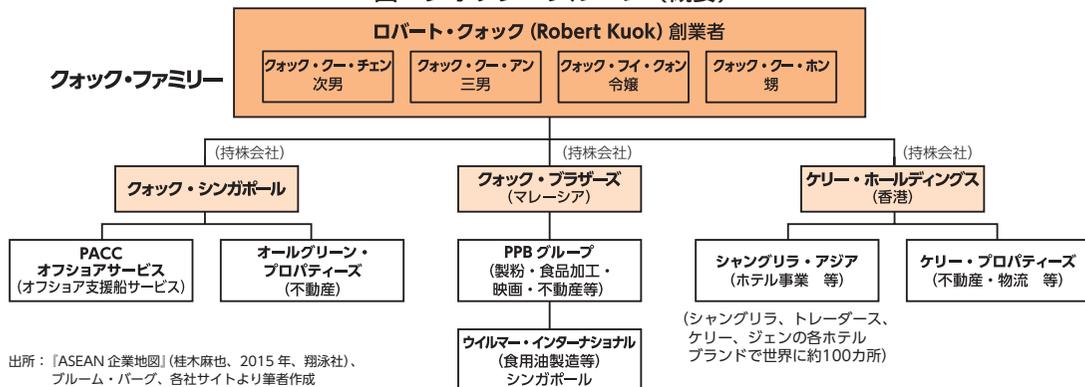
融、鋼材、木材、映画館、メディア等の幅広い事業領域を扱う多数の企業群を有するコングロマリットである。

グループ経営の特徴は、①香港・マレーシア・シンガポールに大拠点を有し、②幅広い事業領域でビジネスを展開、③クオック氏は創業者として依然影響をもつが、④所有・経営面では子息・令嬢・親族が中心となっており、各社の業務執行の任は多国籍で経験豊富な多くの専門経営者が担っている。

父や叔父から事業の基本を学ぶ

創業者クオック氏はマレーシア最大の富豪で、米Forbes誌のThe World's Billionairesランキング(2017年)によれば、資産114億ドル(約

図：クオック・グループ(概要)



出所：「ASEAN企業地図」(桂木麻也、2015年、翔泳社)、ブルーム・バーグ、各社サイトより筆者作成